



# Rubens 栄光のアントワープ工房と原点の イタリア 2013年3月9日～4月21日

Bunkamura ザ・ミュージアム

4/17 記

Peter Paul Rubens ペーテル・パウル・ルーベンス(1577.6.28～1640.5.30)は、バロック期のフランドルの画家。8年間のイタリア滞在を終えて、アントワープの大規模な工房で多くの弟子を持ち、需要に応える生産を可能にした。採用条件はルーベンスと同じように描くこと。だがそれは無理。そこで弟子の描いたものを監修し加筆して絵の質を保った。アンソニー・ヴァン・ダイクは独立後も共作した弟子。

外交官でもあったルーベンスはスペイン訪問の際、王家コレクションであるラッフアエッロ、ティツィアーノの作品を模写した。また版画を専門家に任せしたが、あまりに厳格なので版画家のリュカス・フォルステルマンがルーベンス暗殺を企てたと云われる。1610年代には、静物画のフランス・スネイデルスと風景画のヤン・ウィルデンスと共同制作を行う。全員全分野に才能があるが、最高峰の技を集結させて美の頂点を目指した。それも厳格の成せる業である。絵画に関する歴史にも精通していた識者であった。



宮廷画家として祭壇画も手がけ平和を願った。